



ロンドン旅行記～その1～



こんにちは。院長の梅津由子です。今回は、夏休みの英国ロンドン旅行についてのお話です。



コロナ禍以来、海外旅行は7年ぶり、一抹の不安をいだきながら出発の日、8月9日の朝を迎えました。不安を映し出すかのような雨の羽田空港。初めて搭乗するブリティッシュエアウェイズ。ロンドンヒースロー空港まで直行便で約15時間のフライトです。

機内ではもっぱら映画を観て過ごします。今回も「はたらく細胞」など日本映画を含む4本ほどを鑑賞。2回の食事（煮魚とご飯のプレートやチキン入りの焼きそばなど和食風のメニュー）をいただき、仮眠を2～3時間。クルーの英語が今一つ理解できず、これからのロンドンでの1週間にますます不安を抱えつつも飛行機は現地時間の午後4時過ぎ無事到着しました。

以前は空港の出国や入国の際、長蛇の列に並び、空港職員さんに直接パスポートにハンコを押してもらったものですが、最近はパスポートを自分でスキャン・顔認証で審査完了です。

ロンドンと日本の時差は8時間、日本の方が8時間進んでいます。また、夏場は日照時間が長く、午後8時過ぎまで明るい日が続きます。空港からロンドン市街まで1時間弱、午後6時ごろホテルにチェックイン。明日に備えて今夜はゆっくり休むことにして、夕食もホテルのpubでいただくことにしました。ローストビーフ、ヨークシャープディング、サラダ、そしてビール！イギリスの夏は乾燥していてビールがおいしいのだそうです。ヨークシャープディングはプリンのようなものを想像していましたが、シュークリームの皮とクロワッサンを合わせたような不思議な食べ物でした。総じて薄味で、あとでガイドさんに聞いたところ、イギリスでは自分で塩・胡椒・添えてあるソースなど加えて好みの味付けで食べるのだそうです。道理で味気ないサラダだったわけです。



平日は夕方になると、お勤め帰りのビジネスマンの多くがpubの外で立ち飲みしていて、よっぽど混んでいるのかと思いきや、中の席は意外と空いていることが多いそうです。外で飲むのが好きなのだそうです。

以前はイギリスにはおいしいものがないといわれていたそうですが、最近は世界各地からロンドンに移住する人が増え、各国の美食を味わえるようになったそうですよ。

明日は街歩きしながら、ガイドさんに地下鉄の乗り方や、スーパーでの買い物の仕方をレクチャーしてもらおう予定です。

程よくビールの酔いもまわってぐっすり眠れそうです。それではまた明日・・・

